令和７年度　第２回学校運営協議会

令和７年１２月５日（金）
９：３０～１１：００

【出席者】
・委員（14 名中 11 名出席）
吉利会長　一守委員　宇野委員　高田委員　竹本委員　中村委員　西山委員
星川委員　本田委員　渡邊委員　木村校長
・教職員（計 13 名出席）

１　開会

あいさつ　　【会長】

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今日は視線入力の体験なども準備してくださっており、我々も新しい体験ができるのではないかと思います。今日も様々な視点から、いろいろな意見交換ができればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

２　視線入力に関する取組について報告と協議

（１）デジタルアートコンテストについて　　【中学部生徒・乗金】

・教育委員会の研究指定を受け、生涯学習の中でも文化芸術に関することの研究を進めている。
・取組を進めるにあたり、本校の生涯学習とはどのようなものかという話し合いを行った。
・たくさんの意見の中から、生涯学習の視点を意識した新たな取組として、「岡山支援学校デジタルアートコンテスト 2025 ～ちょっとファイト エイエイオー ゴーゴー コンテスト～」を開催することに。（視線入力や外部入力スイッチで制作されたデジタルアート作品が対象）
・児童生徒が作成したデジタルアート作品は、校内や高島公民館、岡山市南ふれあいセンターなどの校外にも展示。本校の児童生徒・教員・保護者・地域の方々に気に入った作品に投票してもらい、受賞作品を決めようと考えている。委員の皆様にも本日投票をお願いしたい。
・このコンテストは、中学部のⅡグループの生徒の授業からスタートしている。サブタイトルは中学部Ⅱグループの生徒の好きな言葉や口癖を集めたもの。
・授業の中で生徒が作成したデジタルアートコンテストの紹介動画を視聴。
・QR コードを読み込んで投票する方法を採用。SNS 上の「いいね」も票になる。
・入り口の方にチラシも。必要部数持ち帰りいただいて、ぜひご宣伝を。
・新しい取組なので、忌憚のないご意見をいただき、より良い取組にしきたい。

（２）視線入力（EyeMoT アプリ）体験　　【ICT 活用推進チーム】

（３）グループ協議

協議題：「視線入力アプリを活用した取組の推進について」

重度重複障害のある児童生徒における視線入力アプリの活用において、機器の準備やアプリの設定など支援者によるサポートは欠かせない。導入にあたっては支援者側に対する専門家からのサポートも必要となる。卒業時の進路先等への引継ぎも十分な引継ぎとはなっておらず、生活介護事業所の職員が少ないという現状もあり、卒業後にあまり活用が進んでいない。児童生徒が制作した作品の鑑賞や体験した感想等を交換し、卒業後につながるための活動（在学中にできること）について協議したい。

【１グループ】
・操作が難しいという感想あり。使いやすいものにしていくことで、楽しさやコツをつかむ感覚につながり、楽しい作品ができるのだろう。
・自分で作成した作品がイメージ通りにできた時には、非常に大きなものが得られるだろう。その点からも、もっと使いやすいアプリになればという意見あり。
・手軽に一般家庭でも使えるような、共通性のあるアプリができれば、もっと広まっていくのでは。また、子供達はどうしても離れ離れになっていくが、ペンネームを作品の中に入れるなどで、卒業後のつながりにも一役を買うのではないかと期待している。
・アプリの更新時に使用者のアイデアが反映される、つまり、子どもたちにも参画をしてもらう、自分たちが作っていくんだという意欲にもつながれば良いなと思う。

【２グループ】
・それぞれの作品、素晴らしいが、素晴らしさに至った様子が分かったらいい。バックグラウンドが伝わったらいい。プロセスの紹介もあればより深まる。例）取組の様子を動画で発信
・視線入力の取組が卒業後にどのように活用されるのか、よく見据えていく必要がある。企業の方に伝えたり、事業所に伝えたりということも含め、支援を継続していくことが大事。
・学校の発信ももちろんだが、行政にも補助や支援をいただきたい。そのための発信あるいは連携も、今後必要になっていくだろう。

【３グループ】
・使ってみて、少しコツが要る、目線を動かすことの難しさを感じた。
・視線だけでアート作品ができるということは子供たちの自由な表現につながる。つまり、今後の生涯学習にもつながるのでは。
・生活介護事業所等で、実習時点から職員さんがスキルの習得をしてくれたら良い。
・学生のボランティアさんを活用して、そういった方にも支援していただくのもどうか。
・すごくいい作品ができるので、アートとしてだけでなく、事業所等との連携で、お菓子のパッケージになど、商品化できるといいのでは。

３　今年度の取組の報告

（１）学校評価アンケートの回収率について　　【栗原】
・今年度の学校評価アンケートの回収率、保護者のアンケートの回収率は 90%。
・詳細については、次回報告を行うことを確認。

（２）防災ワークショップの取組について　　【炭廣】
・今年度の地域防災ワークショップについて報告。副題は「防災を自分ごととして考えよう」。
・10 月 25 日（土）本校体育館及び本校校舎の２階を使って開催。
・災害時の被害を最小限に抑えるために、「自助・共助・公助」について、共に学び、地域における防災力を高めるという目的で、地域の皆さんと一緒に災害について学ぶ会である。
・今年度も旭川荘防災顧問の竹本光信様を講師にお招きし、防災講義を開講。
・正常性バイアスやカエル理論などを基に、災害を自分ごととして考えにくい、危機感を感じない仕組みを教えていただいた。
・岡山市危機管理室からは、どのタイミングでどこに避難する判断をすれば良いか、情報の得方等を教えていただく。
・情報提供のコーナーでは、旭川荘療育医療センターと敬老園の方から、福祉避難所についての説明、本校からは、緊急避難所としての本校の使い方等の説明をそれぞれ行った。

・最後に地域の方向けに、緊急避難所への入り方や使えるエリアを確認いただいた。
・アンケートより、地域の方から「防災に関し再認識ができた。」「自分ごととすることの重要性がわかった」とのご意見をいただけた。ワークショップの運営やあり方についてもご意見があり、今後の会について検討の必要性を感じている。

（３）生涯学習（スポーツ）の取組について　　【北村】

・学校経営計画書より、生涯学習推進に向けた３つのポイントの共有
・昨年度の報告後、委員の皆様に頂いたアドバイスを実践に生かしてきたこと、また、教科学習や将来の生き方とも結びつけるという意識ももって取り組んでいることを報告
・事例（生徒の各種大会への出場、校内での推進・育成、校内新聞の発行）の紹介
・今後の予告（トップアスリート派遣事業・あすチャレ！）
・他の先生方の経験や専門性を生かして役割分担をしていくこと、本校の取組やねらいを校内外で周知し、関係者の方、専門性やご経験を有する方、各機関、各団体の方等に情報共有や連携を依頼していくことを、係の課題として共有。

（４）ファッションショーの取組について　　【高木】

・本年度も岡山南高校と就実大学の協力を得てファッションショーを実施。
・全児童生徒からモデルを募り、参加者が決定したら、衣装のイメージを伝え合う。
・3 回目のオンライン。小物の贈呈式。衣装に合わせる小物と一緒に、モデルの生徒一人一人に手紙も贈呈いただく。（贈呈式の様子を動画で紹介）笑顔溢れる贈呈式となった。
・小物と衣装が決まったら、次はファッションショーを盛り上げる音響や照明の準備へ。昨年度と同様に、就実大学の協力をいただき、本校ICT活用推進チームとタッグを組んで、生徒が自分で操作できる音響や照明の装置を作ってくださった。
・最後にファッションショー本番の映像をご覧いただく。

４　連絡

・第３回学校運営協議会について
　令和８年２月２７日（金）９：３０～１１：００
→出欠表での回答を依頼。

５　閉会

あいさつ　　【校長】

・ICT の視線入力アプリの体験・ご意見・ご感想等へのお礼。
・資料の表紙にある高等部の写真(大きな絵筆で模様を描いている様子)について。岡山インクルーシブフェスティバルのイベントの一環で、表町の商店街の方にタペストリーを掲示する予定。それに参画をさせていただいたもの。子供たちの励みになるのでは。
・引き続き、本校の運営に一緒に関わっていただけたら。今後ともよろしくお願いいたします。

ネットワークに
ながっています